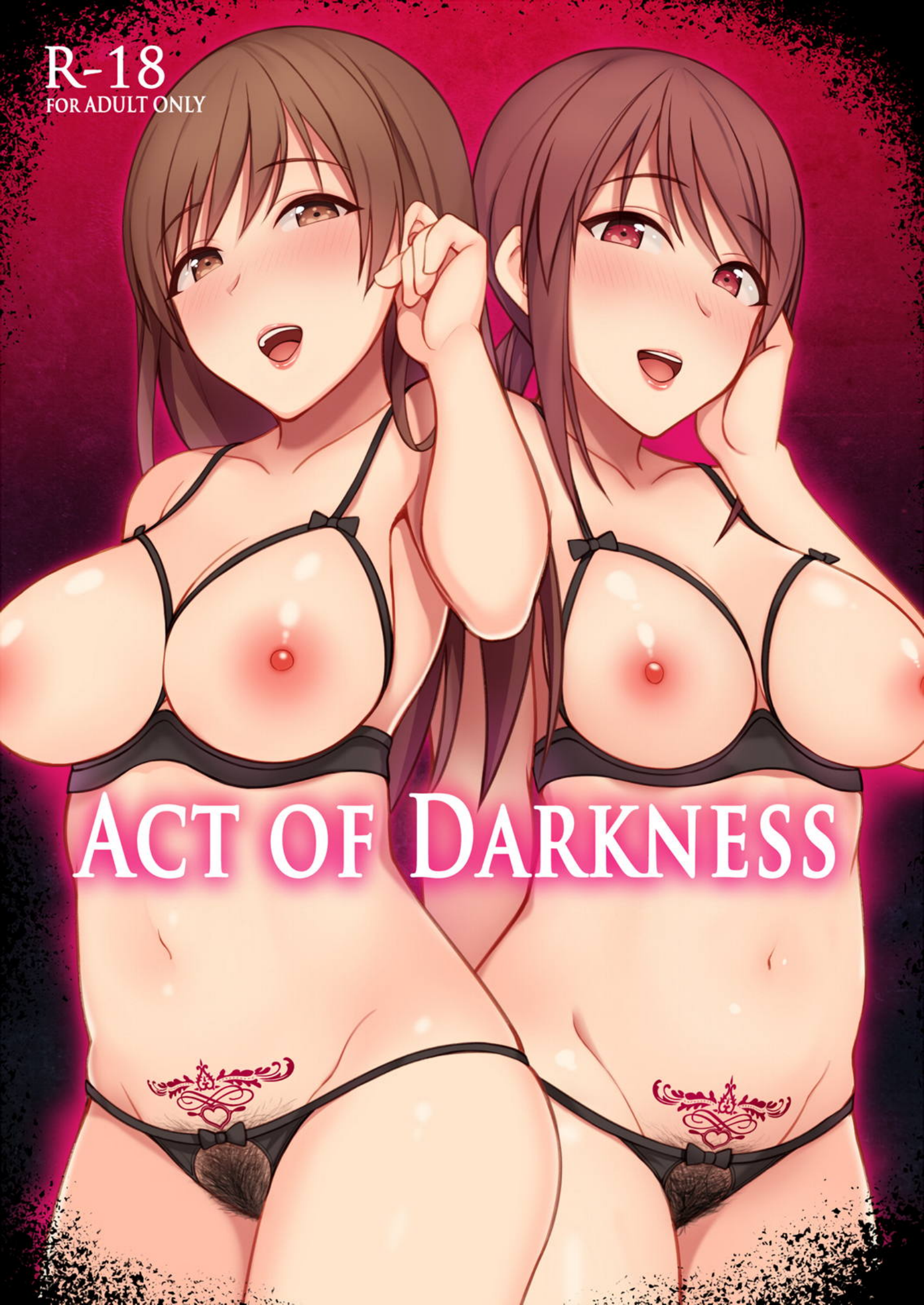
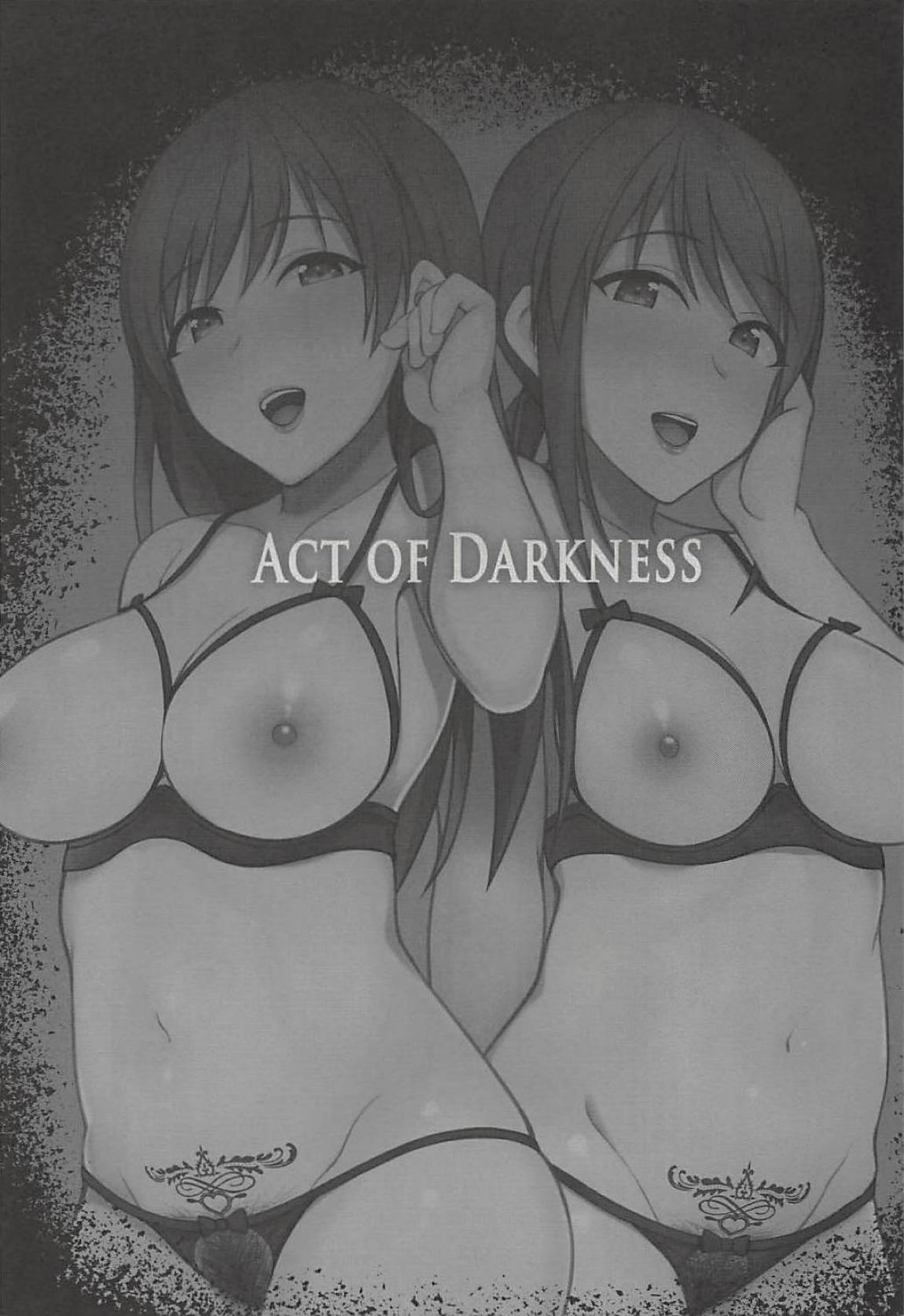

R-18
FOR ADULT ONLY
ACT OF DARKNESS


ACT OF DARKNESS

ガチャ

それじゃ美波行ってくるよ

いってらっしゃいあなた♥

努めて明るく笑顔で娘と一緒に求職中の夫を見送る毎日

でもそんな生活はもう限界だった

一流企業に勤めていた夫が突然リストラされてからもうすぐ一年

残高が増えることのない通帳を見ていると頭が痛くなる

高給取りだった夫は、プライドが高く見栄っ張りで前と同条件以上の職をずっと探しているが、今の時代にそう簡単に見つかるはずもない

早期完済のために毎月の返済額を多く設定した我が家のローンが家計に重くのしかかる

「すぐに職を見つけるから大丈夫」なんて夫は言って通帳の残高なんて気にもとめない

貯金が底をつく日も遠くないのに…

普通の主婦として生きると引退する時に決めたけど——

夫が働かないなら私が働くしかない

ローンを返しながら生活費も確保するには、アルバイトやパートじゃとても足りない…

早くお金が稼げる場所…芸能界に復帰するしかない

「美波ちゃん♥
こっちこっち」

「美優さん
お忙しいところすみません」

「ううん、
ちょうど今日は
オフだったから」

美優さんはアイドルを引退して結婚するが、
数年後に離婚し元夫のせいで多額の借金を
背負ったともっぱらの噂だった

その後に個人事務所を設立して芸能界に復帰、
多方面に活躍中で既に借金も完済したらしい

きっと美優さんなら
力になってくれるはず…

夫がリストラされたこと
家計が火の車であること…
すべて美優さんに打ち明けた

「どうしても再デビューして
お金を稼ぎたいんです」

「力を貸してもらえませんか」

「美波ちゃんの事情はわかったけど…
引退した元アイドルが芸能界に復帰して
生きて行くのは簡単なことじゃないわ」

「相当な努力と覚悟をしないと私たちの
居場所なんてすぐなくなってしまうわよ」

簡単じゃないことはわかってる
今の私にどれだけの価値があるのか…
それでもきっとこれしかない

私…再デビューに賭けたいんです

ギュ

「そう…わかったわ」

「力になれることは多くないけど…
身を削ってでも再デビューする覚悟と
決意が本当に美波ちゃんにあるのなら…」

「明日この場所にいらっしゃい」

そう言って美優さんは
小さなメモを私に手渡した

メモに書かれていた住所は
裏路地にひっそりと佇む
生活感のない一軒家のものだった

本当にこんな場所で
合ってるのかしら…

…美波ちゃんいらっしゃい
入って突き当りの部屋まで
来てもらえるかしら

言われた部屋に行くと…

男の人達の肉棒を咥え
嬌声を上げる美優さんがいた

「み、美優さんっ!?」

「美波ちゃんごめんね♥
おじさまたちが我慢できなくて
先に始めちゃった」

「いやぁ…美優ちゃんと
エッチするのも久しぶりなもんで」

「つい我慢できなくなって
先に始めちゃったよ」

「はははははは」

「ここは各界のお偉方やスポンサーと
セックスするためのヤリ家なの♥」

「美優さんこれって…
枕営業じゃ…」

それに美優さんの
あのタトゥーは…?

「結婚して引退したアイドルを支える
熱心なファンなんていない。
プロデュースしてくれる人もいない」

「それでも芸能界で生きていきたいなら
こうするしかないって美波ちゃんだって
心のどこかでわかってたはず」

「だけど嫌なら帰ってもいいし、
全ては美波ちゃん次第よ」

「…どうする?」

「美優ちゃんから聞いてるよ
美波ちゃん再デビューしたいんだって？」

「…はい」

「アイドルはたくさんいるのに
元アイドルになっちゃうと
どうしても需要が少ないからねぇ」

「でもおじさんたちに任せてよ♥」

「美波ちゃんが頑張ってくれたら
良い仕事回してあげるからさ」

「いやいやまったくですな♥」

「う～ん、美波ちゃんのカラダ
すべすべモチモチで触ってて飽きないよ♥」

「美波ちゃん経産婦とは
思えないカラダしてるね♥」

ムギュ♥
むにゅ♥
むにゅ♥
ムチ♥
ムギュッ♥
ムチ♥

「それにしてもまさか美波ちゃんと
ヤレる日がくるなんて思わなかったよ」

「アイドルの時から美波ちゃんのこと
いいなぁっておじさん思ってたんだよ♥」

「あ、ありがとうございます…」

「そんなに緊張しないでよ
たくさん気持ちよくしてあげるからさ」

「赤ちゃんできてアイドルの時よりも
おっぱい大きくなったね～♥
美波ちゃんのおっぱいは優秀なミルクタンクだね♥」

なにがミルクタンクよ…
言葉も手付きも気持ち悪い…

「おーっ♥ 美波ちゃんの母乳出た♥」
ぎゅむっ
ドピュッ
「美波ちゃんのミルクタンクすごいね～ シャワーみたいに吹き出てくるよ♥」
「んあ…くっ…ふぅっ♥」
夫以外の人で感じちゃいけないのに… 声我慢しなきゃいけないのに… 声が出ちゃう…この人の触り方上手い…
「だ、誰が感じてなんか… くすぐったいだけです…ッ」
「テクニックには自信あるんだけどな～」
「おっぱい搾られて美波ちゃん 感じちゃってるんだね♥」
「それじゃ美波ちゃんが 気持ちよくなれるように おじさんもっと頑張るね♥」
ぁぁぁ…
むにゅ
ビュッ
ビュッ
ビュルルッ
ハムチュルル…♥ ズズチュチュチュルルッ♥
ゴキュ
ゴキュ
ぶちゅぶちゅ
ぐちゅぐるぐる
「あっ…んっ♥ はぁ…♥」
娘のためのおっぱいなのに… 吸われて感じちゃうなんて…っ
「豊かな風味と甘味… 口いっぱいに広がる メス臭さが素晴らしい♥」
「アイドルの母乳を飲めるだなんて 世の男たちは泣いて羨むだろうね～♥」

「さてワシは下の味を
確かめさせてもらうとしよう」

「処理されずケツ穴まで
毛が生えてるところを見ると
旦那とはご無沙汰のようじゃな」

『…ッ!』

キッ

ギリッ

「ククク…図星のようじゃな」

「あ、あなたには関係ありません…っ」

「ずいぶんと威勢がいいじゃないか
もう少し自分の立ち場を弁えたほうが
いいんじゃないかね」

ぐい

これも生活のため…
我慢しなくちゃ…

「…申し訳ありませんでした
娘が生まれてから夫とはしてません…」

ひく
ひく…♥

「道理で少しイジられただけで奥まで濡らして
物欲しそうに膣壁が収縮するわけじゃ」

くちゅ♥

ひく

くぱぁぁ♥

「それでは男に飢えた蜜壺の味見をさせてもらおうかの」

ズチュチュッ
ズズヂュルルルル――ッ

「あっ…くぅ…♥
んはぁ♥ あっ♥
はぁ～～～～♥」

あっ♥

あっ♥

おっ♥

ん♥

じゅぶるるるるぅぅ♥

ずるるるるるるるぅぅ♥

この人…女が感じる場所を的確に責めてくる…っ

「くくくく…
いくら吸っても舐め取っても
この蜜壺からは蜜が湧いてくるわい」

「ふぅ～甘露甘露♥」

「飢えた女の愛液の
濃いこと濃いこと♥」

「次はこの火照ったマンコの
具合を確かめさせてもらおうか」

「あがっ…♥
あっ…ふああっ♥」

おぅ♥

おほ♥

んへぃっ♥

ぷしゅぅぅ

ぎぶぅぅ♥

「マンコの締まり具合も素晴らしい
愛液が止め処なく溢れ出てくるではないか」

ん♥

この人の指遣い…
女の気持ちいいとこ
わかってる…

んっ

「あひぃっ♥
はぁぁぁぁぁ〜〜〜〜っ♥」

この状態でクリトリスまで刺激されたら…
おかしくなっちゃう♥

ちゅくっ
ちゅくっ
ぐりゅ
ぐりゅ

「メスの嬌声ほどオスを刺激するものはないな」

こんなことされたら
気が狂っちゃう♥

「あっあっあっ♥
んほぉぉぉぉぉぉぉ――ッ♥」

あ〜っ♥
おっ♥

「上からも下からもメスの臭いを撒き散らして
男を誘惑するとんでもない淫乱女じゃな」

ぶるるっ
ぶるるっ
プシュッ

「あがっ♥
あっ…あぁぁ♥」

おっ♥

「くっくっくっ
潮まで吹きおったわ」

「いやぁさすが■さんの
テクニックはすごいですなぁ」

ぶしゅぁぁぁ
あっ♥
んひぃっ♥

「美波ちゃんのカラダがもう
グショグショですよ♥」

「ワシの手にかかれば
どんな女もイチコロじゃよ」

はー♥
はー♥

こんなの…イヤなはずなのに…
夫でも感じたことないこの快感はなんなの
この人たち…
女の悦ばせ方を熟知してる…♥

「そろそろ本番といきますか」
「それでは約束通り私が最初に頂きますね」
「ぬぅ…約束じゃからな ここは[redacted]君に譲るわい」
「待ってください… それだけは…夫が…」
夫以外とセックスするなんて やっぱりそんなことダメよ…
「おじさまたちが 興醒めするようなこと 言っちゃダメでしょ」
「美波ちゃん口を開けて」
「おじさま達の趣味なの♥」
「レズってるとこ 見たいんだって♥」
「なにを…んぐっ――」
ブチュチュ～～♥ チュプッ♥ チュププ――♥
美優さんとキスしながら 男の人とセックスしてる…？
カラダがふわふわして 何が何だかわからない…
美優さんいい匂いするし 唇すごくやわらかい…
口もおっぱいも クリトリスもオマンコも とにかく全身が気持ちいい…
「私達はカラダを委ねればいいの。 そうすれば全部どうでもよくなるくらい 気持ち良くしてもらえるから♥」
「せめて… せめてゴムだけは…」
「ちゃんと妊娠しないように お薬もらえるから大丈夫♥ 私も気持ちよくなれるように 手伝ってあげるから♥」
「んぷっ…美波ちゃんの唇やわらかい♥ 女同士も悪くないかも♥」
「美女同士の絡みとは眼福眼福♥」
「ぬぅ…そんなの見せられたら辛抱ならん」

「口でワシのをしゃぶってくれ」
「[redacted]さん美波ちゃんの口マンコどんなもんですか？」
「なかなかどうして悪くない具合じゃ[redacted]君マンコのほうはどうかね？」
「素晴らしい締め付けと吸い付きでチンポを咥えて離しませんよ。とても子持ち人妻とは思えませんね」
「ふっ♥ ふっ♥ んぐぐ――っ♥」
こんな頭を押さえつけられて無理矢理させられてるのにどうして感じちゃうの…？
「あー、すっごいマンコ締まってる。上も下も突かれて感じるなんて美波ちゃんはドスケベなんだね♥」
違う…私はこんな人たちとセックスしたくなんてない筈なのに…セックスしていいのは夫だけなのに…なんで…どうして…
「やはり女を抱くなら若い娘よりも女盛りのメスじゃな。男を悦ばせるメスのカラダになってるわい」

「それじゃ今度はそのスケベな胸でワシのチンポをしごいてもらおうかな」

夫にもこんなことしたことないのに

「おほ♥この乳圧たまらんな♥口でチンポの先もねぶってくれ」

好きでもない人と…しかも複数の男の人とセックスするなんておかしいのに…

我慢したくてもどんどん気持ちよくなっちゃう…♥

我慢しないで大きな声で喘いだら…きっともっと気持ちよくなれる♥

こんなおかしいセックスしてるんだから私だっておかしくなっちゃってもいいよね

あなたごめんなさい…

私…おかしくなっちゃいます♥

「あっ♥おっ♥おっ♥あああッ♥」

「美波ちゃんノッてきたね～♥そんなにチンポ気持ちいい？」

「気持ちいいでしゅ♥」

「あひぃ♥んっ♥んっ♥んほおおおっ♥」

「旦那のチンポとどっちがイイ？」

「こっちのチンポぉ♥」

夫とのセックスじゃカラダを突き抜けるような快感味わえない…♥

「素直になれたご褒美に奥にたっぷり中出ししてあげるね♥」

「ありがとうございましゅ♥オマンコにたっぷり注いでくだひゃい♥♥♥」

「オラッ…
人妻マンコに
種付けしてやるッ!!」

奥にアツい大量の精液
キてるのわかる…♥

こんなことされたら…もう♥♥♥

「ワシも出すぞっ!
たっぷり顔にぶっかけてやるわ!!」

「おっ♥　おっ♥　おぅっ♥
精液にまみれてイッちゃう〜〜〜〜〜ッ♥♥♥」

カラダの中も外も
濃いオスの匂いが
染み込んできてる…♥

「では次は私が…」

「いやいや■さん
ここは私が先に…」

「もう、おじさまぁ♥
さっきから美波ちゃんばかりズルいですよ」

「次はおじさまたちのチンポで
美優のオマンコも可愛がってください♥♥」

「あっ♥　はぁっ♥　チンポ気持ちいい～♥」

「美波ちゃんのほうが若いからって
美波ちゃん美波ちゃんって…」

「寂しくてさっきからずっと
オマンコ疼いてたんですよ♥」

「ごめんごめん
どうしても新しい玩具で
遊んでみたくなっちゃうんだよ」

あっ♥

あっ♥

あっ♥

ぬちゃ

ぬちゃ

ぬちゃ

ぬちゃ

ぬちゃ

ぬちゃ

「それにしてもチンポほしくて嫉妬しちゃうなんて
やっぱり美優ちゃんはドスケベだね♥」

「だって久しぶりに可愛がってもらえるって
すごく楽しみにしてたんですよ♥」

「それに美波ちゃんのあんな淫らな姿を
見せられたらもう我慢できなくて♥♥♥」

しゅち

しゅち

しゅち

はっ♥

はっ♥

ぬちゃ

ぬちゃ

ぬちゃ

ぬちゃ

「ちゃんと美優ちゃんのことも
可愛がってあげるから安心して♥」

「えへへ…
ありがとうございます♥♥♥」

はー♥

はー♥

「あ～やばい♥ 美優ちゃんの手さばき、舌遣い、腰遣い… 男を悦ばせるスケベテクニック最高～♥」
あっ
はあっ
「そうなんだよね～ 最近は美優ちゃんとヤルのが 気持ちよすぎて他の女とヤッても 満足できないんだよな」
「えへへ♥ それじゃもっと美優の 虜にしてみせますね♥」
あっ
おっ♥
「くっ…ザーメン出すよッ」
「おじさまたちの濃厚ザーメンをカラダに いっぱいぶち撒けてくださいっ♥♥♥」
「あ～っ…出るッ 美優ちゃん出すよッ!!」
「あっ♥ んぅぅぅ♥ はぁぁぁあん♥ 濃厚ザーメンきたぁ～♥♥♥」
おぉ～ッ♥
おぉ～ッ♥
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ドピュ♥
ドピュ♥
ビュッ
ビュッ
ドピュッ♥
ドピュッ
ドピュッ

「あ～ん♥
せっかくのザーメン溢れてきちゃった」

「もったいないし美波ちゃん
お口開けてアーンして♥」

「ザーメンと愛液の特性ブレンド
味わって飲んでね♥」

すごく卑猥な匂い…
頭がクラクラして…
カラダがアツくなって
アソコが疼いちゃう…♥

「私の精液を美波ちゃんに飲ませてるみたいで
なんかこれすっごくエッチで興奮しちゃう♥♥♥」

「さぁ、美波ちゃんいつまでも呆けてないで。
まだまだおじさまたちはヤリ足りないんだから♥」

「いつもより張り切って
セックスしちゃうよ～♥」

「おじさまったら素敵♥
美優のオマンコにいっぱい
ハメハメしてください♥♥♥」

これ以上あんな快感を味わったら
きっと抜け出せなくなる…

夫とのセックスじゃ
満たされなくなっちゃう

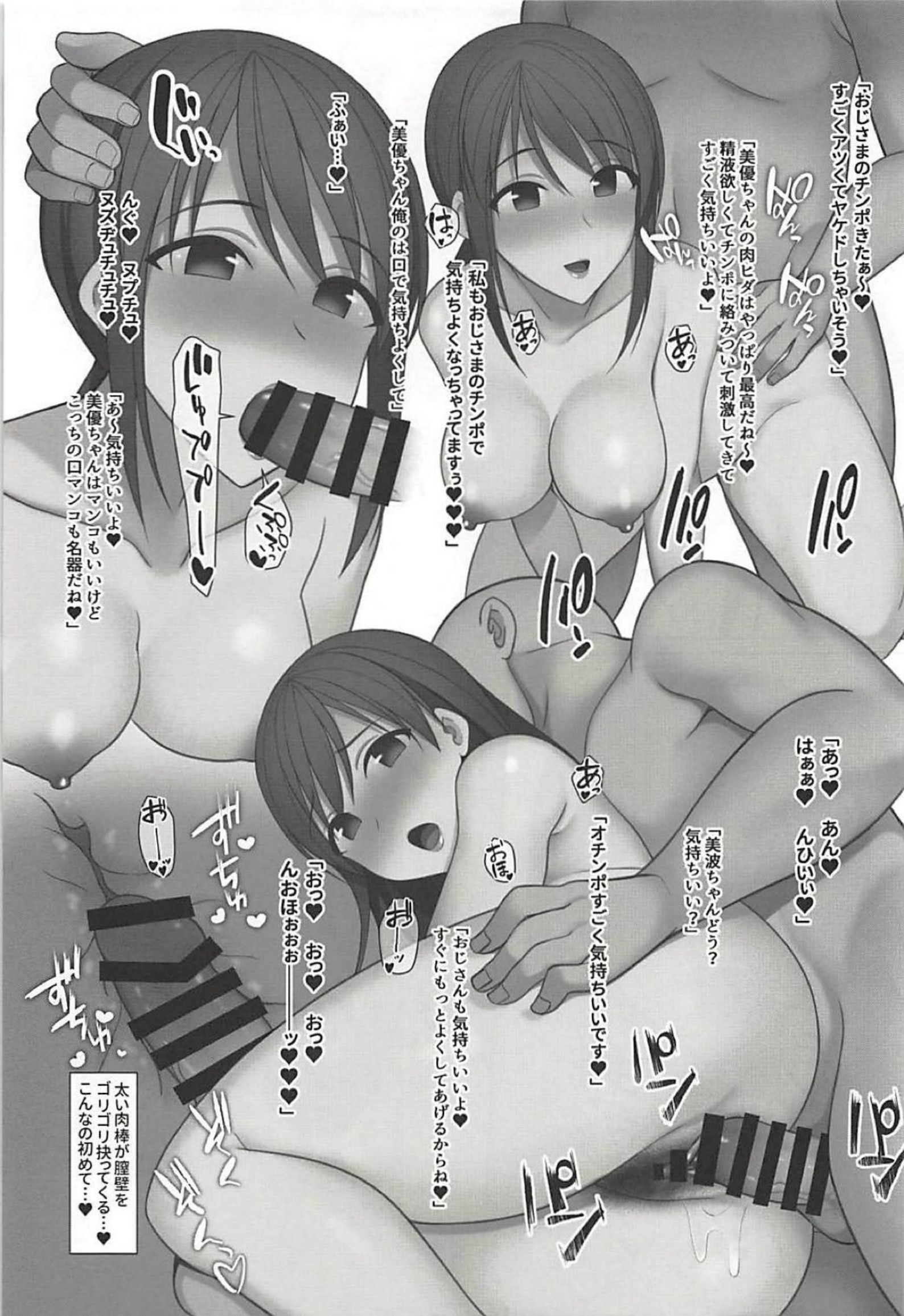
あれ…？

でも…

夫とはもうセックスなんて
してないんだからべつにいいか

だったら家族のためにオチンポ咥えて
気持ちよくなったほうがいいよね♥

「美波も…
オマンコにオチンポ欲しい…です♥
人妻オマンコでたくさん
気持ちよくなってください♥♥♥」


「おじさまのチンポきたぁ～♥
すごくアツくてヤケドしちゃいそう♥」
「美優ちゃんの肉ヒダはやっぱり最高だね～♥
精液欲しくてチンポに絡みついて刺激してきて
すごく気持ちいいよ♥」
「私もおじさまのチンポで
気持ちよくなっちゃってますぅ♥♥」
「美優ちゃん俺のは口で気持ちよくして」
「ふぁい…♥」
んぐ♥ ヌプチュ♥
ヌズチュチュチュ♥
「あ～気持ちいいよ♥
美優ちゃんはマンコもいいけど
こっちの口マンコも名器だね♥」
「あっ♥ あん♥
はぁぁ♥ んひいい♥」
「美波ちゃんどう？
気持ちいい？」
「オチンポすごく気持ちいいです♥」
「おじさんも気持ちいいよ♥
すぐにもっとよくしてあげるからね♥」
「おっ♥ おっ♥ おっ♥
んおほおおお――ッ♥♥♥」
太い肉棒が膣壁を
ゴリゴリ抉ってくる…♥
こんなの初めて…♥

「美優ちゃんのオマンコに出すよ！」

「んぐっ♥　んふっ～♥
ふぐうううう～～～～♥」

「俺も口マンコに中出しするぞッ!!」

「くぅ～やっぱこの口マンコ最高～♥
ザーメンを喉の奥まで注ぎ込んでやる」

「美波ちゃんの淫乱人妻マンコに種付けするよッ」

「ザーメンくだひゃい♥
人妻オマンコに子種汁
注いでくだひゃい♥♥♥」

子宮に精液ぶっかける
本気の種付けプレス
最っ高――っ♥♥♥

「[redacted]君
ケツ穴もほぐれてきたことだし
君もマンコにハメたらどうかね？」

「[redacted]さんいいんですか？」

「もちろんワシは構わんよ」

「それではご相伴に預かります」

「おっ♥ おほぉ♥
チンポ二本きたぁ♥♥♥」

「さすがに二本入れると膣圧がすごいですね」

「まったくじゃ
この締め付けは病みつきになりそうじゃよ
すぐにでも果ててしまいそうになるわい」

「美波ちゃんもっと円を描くように
いやらしく声を前後左右にグラインドさせてみて♥」

「こ、こうですか？」

「そうそう♥
美波ちゃんセックスのセンスあるね～♥」

「えへへ♥
ありがとうございます♥」

キスしてるだけなのにそれだけで
イッちゃいそうなくらい気持ちいい♥

脳がジンジン痺れてもう
セックスのことしか
考えられない♥♥♥

「さぁたっぷりメス穴に
精液注ぎ込んでやるぞ!!」
「あっ♥ はひぃ♥
おっ♥ おっ♥ おほぉ♥」
「おらイケッ!!
二穴突かれてアクメしろっ
この淫乱雌豚がッ!!」
「イグ♥ イグゥ♥
イキましゅ〜〜〜〜〜♥♥♥」
「美波ちゃんイクよっ!」
「はひぃ♥
美波にオチンポ汁
注いでくだひゃいっ♥」
「他人妻に中出しキメてやる!
知らない男のチンポで絶頂しろ——ッ!!」

その後も代わる代わる
何人もの男の人に犯された
最後はほとんど記憶もなく
全身が性感帯のように敏感になって、
ひと撫でされるだけで快感が
カラダを駆け抜けるようだった
お〜♥
あ〜♥
あ〜♥
は〜♥
はあっ
は〜♥
は〜♥
「いやぁ張り切って年甲斐もなく
ヤリすぎてしまったわい」
「私もこれ以上は
もう一滴も出ませんよ」
「それでは近いうちにワシの会社から
二人にいくつか仕事を回しておくからの」
「ウチは今度のゴールデン特番に
二人をねじ込んでおくからね」
「美波ちゃんがやりたがってた
連ドラに役を用意しておくから」
「昼のバラエティ番組にファッションコーナーあるんだけど
そのファッションモデルに美波ちゃんどうかな？」
「他にも仕事あったら連絡するからさ」
「それじゃ二人ともまたよろしくね♥」

あの日以来すぐに仕事の連絡があってすぐに再デビューすることができた

久しぶりに戻ってきたこの世界はとても眩しく輝いて見えた

その後も夫への罪悪感を感じながら、家族のためにという建前をかざして何度も男の人たちとカラダを重ねた

仕事も増えてきて家事と両立させながらどうにか軌道に乗るようになった

そして私の収入だけで家族を養い月々のローンを返済しても手元に残るお金も増えてきた

一方で夫は未だに職を見つけられずにいた

——そんなある日、何の前触れもなく離婚を切り出された

プライドの高い夫には芸能界に復帰して家族を養う私と、いつまでも無職の自分を周囲に比べられるのが耐えられないのだろう

この人はどこまでも身勝手で自分のプライドばかり…

私との結婚だって今思えば見栄のためだったのかもしれない

でも今となってはそんなことはもうどうでもいいことだ

私の中にあった愛情や罪悪感が離婚を切り出されてスーッと消えていった

私は躊躇うことなくその場で差し出された離婚届にサインした

あんな人なんていらない

私はシングルマザーとして生きていくことに決めた

お仕事があって
十分なお金があって
愛する娘がいて
たくさんの男の人に愛を注いでもらえる
今のほうがずっと幸せ♥

こんにちは。柊はじめです。
お手にとっていただきありがとうございます。
特にコミケ会場で手にとって頂いた方には、
暑い中わざわざお越し下さりありがとうございました。

次のイベント参加はCOMIC1☆14の予定です。
サクカが用意できず美波で申し込んでありますが、当選したらシャニマスの
恋鐘のエッチな本を予定してます。
でもこの本を作ってたらデレマス催眠本もいいなぁとか思い始めました。
冬コミは文香で申し込みます。受かったら文香のエッチな本と17年と18年
のイラストまとめ本を出したいと思ってます。
それでは、また是非どこかで新刊を手にとって頂けると嬉しいです。
pixivやtwitterもよければ覗いてやってください。

【pixiv】　【twitter】

【誌　名】Act of Darkness
【著　者】柊はじめ
【発行元】Re:Cre@tors
【発行日】2018年8月12日
【連絡先】recreators1990@gmail.com
【印刷所】プリンティングイン株式会社
pixiv FACTORY BOOKS

Act of Darkness